

## 第1回検討委員会における主なご意見と対応

## 1 人材育成

内 容	ご 意 見	対 応
アートマネジメント	全国の公共ホールにおいて人材の高齢化が進み、アーティストの得意分野とホールの間を取り持つ人が減っている。アートマネジメントに対する県の指導が必要である	<p>○基本方向（4）「みんなで支え、総合的に取り組む」に記載 地域文化の持続的な発展のため、地域の文化芸術を熟知し文化資源と文化施設をつなぐマネジメント力を備え、高いスキルを有する専門的人材の育成・確保を進める</p> <p>○重点取組項目4-1「県・市町、芸術文化団体、文化施設、民間等が連携して取り組む体制の整備」に記載 芸術家とホール等の発表の場の間を取り持ち、より魅力ある公演の実施や将来性のある人材の発掘等のマネジメントができる人材の育成に取り組む。</p> <p>○課題と展開方向1（1）「芸術文化を担い、育て、つなげる人材を育成する」に記載 課題：芸術家と観客を結ぶプロデューサー的な役割を果たす人材など、芸術文化活動を支えるプロフェッショナルが十分に養成されていない。 主な取組：アートマネジメント講座の開催等による芸術文化プロデューサー等の育成</p>
若手芸術家の育成	兵庫県は、高校での音楽教育の充実や、芸術文化センターのスーパーキッズオーケストラの存在によって、若手の音楽家がどんどん育つ流れが出来ている。県内で若手アーティストが活躍できるイベントを開催し、地元で若手を育てていくことが重要。	<p>○重点取組項目1-1「人材育成の推進」に記載 青少年に対し、動画配信等も活用するなど、様々な指導者からの指導やアドバイスを受けられる多様な機会を提供し、人材育成を図る。 芸術文化観光専門職大学と各地の文化拠点が連携するなど、兵庫の文化力を生かした人材育成の活動に取り組む。</p> <p>○課題と展開方向1（1）「芸術文化を担い、育て、つなげる人材を育成する」に記載 現状：若手芸術家を育てる様々な取り組みが続けられている。こうしたこともあり、本県ゆかりの優れた芸術家が多数輩出されている。 展開方向：若手芸術家を発掘・育成するため…イベントやコンサートへの出演機会の提供等に取り組む。</p>
先進的・前衛的な芸術家への支援	若手アーティストや先進的・前衛的な分野のアーティストを、どのように応援していくかも考えていく必要がある。	<p>○重点取組項目1-2「県内外・国内外への更なる発信力の強化」に記載 先進的な取組を進める様々な分野の芸術家を支援する。</p> <p>○課題と展開方向1（1）「芸術文化を担い、育て、つなげる人材を育成する」に記載 課題：従来の枠にとらわれない、先進的・前衛的な分野の芸術家をどのように応援していくかにもついても考えていく必要がある。</p>

## 2 施設等における拠点機能の向上

内容	ご意見	対応
新たな拠点施設	県庁の建て替えによって、県庁周辺が新たな芸術文化の拠点となる可能性がある。	○課題と展開方向1(2)「芸術文化の拠点機能を高める」に記載 課題：県庁周辺地域の再整備に伴う新県民会館の建替など、新たな芸術文化拠点整備の効果を最大限に生かす取り組みが求められる。
ノウハウの共有	プロデュース力をもつ芸術文化センターの考え方を、もっと地域に伝えてほしい。県には、大小多くのホールがあるが、そういったホールが育っていくようなプロデュースの仕方を、県が講座を行うなどして広めていただきたい。	○重点取組項目4-1「県・市町、芸術文化団体、文化施設、民間等が連携して取り組む体制の整備」に記載 芸術文化施設の魅力を高めていけるプロデュース方法について、先進事例の情報共有を図るなど、施設間での連携を深め、兵庫全体の芸術文化施設の魅力を向上させる。
施設の安心・安全	安心・安全に演奏を聴けるホールが必要である。客席数を少し減らすなど、感染症に対応した新たなホール作りを考えてほしい。	○重点取組項目1-4「オンライン鑑賞や芸術文化拠点の安全確保など『ポストコロナ社会』への対応」に記載 より多くの人が同じ空間・時間を共有しつつ安心・安全に鑑賞するため、芸術文化施設における適切な感染症防止対策について、これまでの知見を生かし、検証・検討に引き続き取り組む。 ○課題と展開方向1(2)「芸術文化の拠点機能を高める」に記載 展開方向：コロナ禍で浮き彫りとなった施設の安全性確保についても、情報共有等を進める。

## 3 発信力の強化

内容	ご意見	対応
新しい手法の推進	コロナ禍から生まれた新しい創造・発信の手法は、今後も進めてほしい。	○重点取組項目1-4「オンライン鑑賞や芸術文化拠点の安全確保など『ポストコロナ社会』への対応」に記載 コロナ禍から生まれた新しい創造・発信の手法の定着を図るとともに、その一層の発展を図る。 ○課題と展開方向1(3)「芸術文化の発信力を強化する」に記載 現状：新型コロナウイルス感染症拡大にあたり、公演や展覧会など通常の芸術文化活動の実施が困難となる中、インターネットサービスを活用した動画配信の取り組みが一気に進むなど、新たな芸術文化の創造・発信手法が展開されつつある。 展開方向：コロナ禍から生まれた新たな創造・発信の手法を発展させるため必要な支援を引き続き行う
研修システムの構築	今後、世界に向けて発信するには、ICTに関する研修等のシステムを構築してほしい。	○課題と展開方向1(3)「芸術文化の発信力を強化する」に記載 展開方向：動画配信から収益を得る方法や効果的な動画発信手法の開発や研修、配信された動画等を後世に伝えるための情報整理・アーカイブ化など、新たな展開を進める。
市場性の獲得	ICTに関しては、それが市場で成り立つかを考えて支援する必要がある。	○課題と展開方向1(3)「芸術文化の発信力を強化する」に記載 展開方向：ICT等の活用により、効果的・効率的に情報発信を進めるとともに、潜在的なマーケットを掘り起こす。 主な取組：・動画配信から何らかの収益を得る方法の開発
芸術文化の本質とのバランス	時間と空間を共有するという芸術文化の本質的な部分と、ICT活用により潜在的なマーケットとして掘り起こすことが可能かどうかは、上手くバランスをとる必要がある。	○重点取組項目1-2「県内外・国内外への更なる発信力の強化」に記載 時間と空間を共有して生の鑑賞体験をするという芸術文化の本質的な部分と並行して、動画配信をはじめとしたICT活用等による新たな創造・発信・鑑賞の手法を発展させていく。 ○課題と展開方向1(3)「芸術文化の発信力を強化する」に記載 展開方向：(ICT等の活用)際には、実際に時間や空間を共有するという芸術文化の本質や、ゆったりとした時間や場所の確保、ICTになじみの薄い層への発信などについても、十分に留意する。

#### 4 芸術文化に親しむ場づくり

内容	ご意見	対応
県民意識と芸術文化の復活	兵庫県では、文化に対して興味がある人が多い。阪神・淡路大震災のなかで、芸術文化が果たした役割に人々が共感したからではないか。こういった県民の意識をもとに、コロナ禍の後、どのように芸術文化を復活させていくかが重要になってくる。	<p>○重点取組項目1-4「オンライン鑑賞や芸術文化拠点の安全確保など『ポストコロナ社会』への対応」に記載 阪神・淡路大震災からの復興のなかで芸術文化が果たした役割をあらためて認識し、コロナ禍の後の芸術文化の復活、発展に取り組む。</p> <p>○課題と展開方向2(1)「地域で多様な“場”を育て広げる」に記載 現状：兵庫県では、地域差はあるものの、文化に対して興味を持つ人が比較的多い。これは、阪神・淡路大震災のなかで、芸術文化が果たした役割に人々が共感したからではないかと思われる。</p>
屋外の活用	コロナ禍で、屋外で演奏する機会が増えた。屋外の劇場があっても良い。	<p>○課題と展開方向2(1)「地域で多様な“場”を育て広げる」に記載 展開方向：コロナ禍の中で、比較的安全とされる屋外や屋外型の劇場の積極的な活用を進める。</p>
アウトリーチの推進と課題	県と連携しながら、アウトリーチ活動をどんどんやっていきたい。一方で、アウトリーチを進めることは、コロナ禍の中で課題も多い。	<p>○重点取組項目2-2「様々な世代間で芸術文化をともに楽しめる交流の推進」に記載 芸術文化団体によるアウトリーチ活動等を通じ若い世代との交流を進め、新たな参画を促すなど、団体の活動の維持・継続に取り組む。</p> <p>○課題と展開方向2(1)「地域で多様な“場”を育て広げる」に記載 主な取組：① 芸術家等が地域へ出向くアウトリーチ活動の推進</p>

#### 5 障害者と芸術文化

内容	ご意見	対応
法律の制定	障害者文化芸術活動推進法ができ、基本計画で障害者との共生あるいは包摂が目標・戦略として取り上げられたことが、ここ5年の大きな変化である。	<p>○課題と展開方向2(2)「芸術文化による社会包摂の実現」に記載 現状：第2期ビジョンの期間中には、平成30年に「障害者文化芸術活動推進法」が制定されるなど、障害者の文化芸術活動の推進が社会的課題の一つとしてクローズアップされており、</p>
障害者のアクセス可能性の拡大	健常者が普通にできる習い事を、障害者も普通にアクセスできる社会を実現したい。	<p>○重点取組項目2-1「すべての人が芸術文化に親しみ、発信できる共生社会に向けた社会包摂の実現」に記載 みんなが行っている習い事を障害者も普通に組み入れるなど、誰もがやりたいと思うことが当たり前になり、芸術文化に親しめる環境づくりに取り組む。</p> <p>○課題と展開方向2(2)「芸術文化による社会包摂の実現」に記載 課題：障害者の鑑賞や創造の機会を単に拡大するのみならず、技能の習得や発表機会の確保、さらには、障害者の芸術文化活動を支える人材の育成が求められている。</p>
文化芸術関係者の意識改革	文化芸術の関係者の意識改革が重要である。学芸員とかホール関係者の意識改革を進めてほしい。	<p>○重点取組項目2-1「すべての人が芸術文化に親しみ、発信できる共生社会に向けた社会包摂の実現」に記載 学芸員やホール関係者など芸術文化の現場に携わる人々に働きかけ、障害者だけでなく、マイノリティや子育て世代を含めた幅広い層が気軽に鑑賞できる機会の創設に取り組む。</p> <p>○課題と展開方向2(2)「芸術文化による社会包摂の実現」に記載 課題：芸術文化関係者の意識改革も求められる。</p>
社会包摂の項目化	社会包摂といった言葉を項目化してほしい。項目とすることで、県が頑張っていくことがより可視化できるようになる。	<p>○課題と展開方向2(2)「芸術文化による社会包摂の実現」に記載 現状：芸術文化を通じた豊かな交流が、様々な背景を持つ他者への理解にもつながり、社会包摂を実現する一助となることを期待されている。</p>

## 6 青少年と芸術文化

内容	ご意見	対応
学校における芸術文化に触れる機会の減少	学校現場では、授業数の確保と教員の働き方改革のため、行事の精選を求められており、ほとんどの学校で芸術文化に触れられる機会は減ってきている。	<p>○重点取組項目2-2「様々な世代間で芸術文化をともに楽しめる交流の推進」に記載 学校での公演の実施など、子どもたちが芸術文化に触れられる機会を確保し、生涯にわたって芸術文化に親しみ、支える人材を育成する。</p> <p>○課題と展開方向2(3)「青少年が本物の芸術文化に親しむ」に記載 課題：教職員の働き方改革や授業時間確保等の事情により、学校行事が精選され、芸術文化の鑑賞や体験の機会が減っているほか、芸術文化活動の主要な担い手であった部活動の活動時間も削減されつつある。</p>
地域の伝統文化の担い手不足	少子高齢化のなかで地域の伝統文化を支える人がいなくなり、消えてしまうことが予想される。	<p>○重点取組項目2-2「様々な世代間で芸術文化をともに楽しめる交流の推進」に記載 伝統芸能や地域の伝統文化の魅力を幅広い世代に発信し、世代を超えて担い手の発掘・育成を図る。</p> <p>○課題と展開方向2(3)「青少年が本物の芸術文化に親しむ」に記載 課題：核家族化が進み、地域のつながりが希薄になるなか、学校以外の場所において、世代を越えて伝統文化や文化的行事に親しむ機会が減少している。こうした中で、伝統文化や文化的行事の消滅も危惧される状況となっている。</p>
世代間交流の仕掛け	今後は、若い人と高齢者の世代間交流を促進する仕掛けを作っていく必要がある。	<p>○課題と展開方向2(3)「青少年が本物の芸術文化に親しむ」に記載 展開方向：青少年に対し、地域の伝統文化や伝統芸能等の魅力に触れてもらうとともに、若い人と高齢者などの世代間交流を図り、次代の芸術文化の担い手として育成を進める。</p>

## 7 芸術文化資源

内容	ご意見	対応
町の魅力となる施設	芸術文化センターは、劇場に足を運ばない人にも大きな変化を与えている。市民にとって将来に残したい町の魅力となり、地域には多くの支援者がいる。	<p>○重点取組項目3-2「地域の優れた芸術文化遺産の発掘・発信による地域意識(シビックプライド)の育成」に記載 県立芸術文化センターをはじめとした各施設について、地域の人々から支持を得て将来に残したい「まちの誇り」と認識されるよう、魅力を一層高める。</p> <p>○課題と展開方向3(1)「芸術文化資源の掘り起こしと文化力の向上」に記載 現状：西宮市の芸術文化センターや豊岡市の城崎国際アートセンターのように、地域に多くの支援者がおり、地域の人々にとって将来に残したい町の魅力となっている施設が生まれてきている。</p>
五国の可能性	兵庫県は広く、自然も豊かで、芸術文化の歴史もある。栄えている阪神だけでなく、播州、丹波など、それぞれの地域が、大きな可能性を有している。	<p>○重点取組項目3-2「地域の優れた芸術文化遺産の発掘・発信による地域意識(シビックプライド)の育成」に記載 兵庫五国それぞれの多彩で特色ある文化の連携を深めるとともに、その魅力を生かすため、文化や観光、産業などの異なる分野間での交流を進める。</p> <p>○課題と展開方向3(1)「芸術文化資源の掘り起こしと文化力の向上」に記載 現状：本県は、広大な県土と豊かな歴史、五国の多彩な風土を反映して、指定文化財や伝統芸能、民話、歴史遺産や産業遺産など、地域を特徴づける文化資源が数多く存在している。</p>
文化財保護法の改正	文化財保護法の改正によって、文化財保存・活用地域計画ができ、資産を将来に活かす法的な組み立てもできた。	<p>○重点取組項目3-1「地域活性化に向け文化資源や芸術文化のまちづくり・産業づくりへの活用」に記載 文化財の保護から活用への流れを受け、文化財をマネジメントする人の人材育成に引き続き取り組む。</p> <p>○課題と展開方向3(1)「芸術文化資源の掘り起こしと文化力の向上」に記載 現状：第2期ビジョンの期間中には、歴史文化遺産の保存・活用にかかる理念と基本方針を定めた「文化財保存活用大綱」が策定された。</p>
集客力のある文化	兵庫県というのは書道王国であり、日本中から兵庫県に多くの人々が訪れる集客力のある文化である。そういったことを一つの大きな資産とする必要がある。	<p>○課題と展開方向3(1)「芸術文化資源の掘り起こしと文化力の向上」に記載 現状：兵庫県は「書道王国」ともいわれ、日本芸術院会員に推挙されるような有力な書家を輩出し、県内で開催される書道展には全国から多くの愛好家や若手作家が訪れるなど、集客力のある文化となっている。</p>

## 8 地域資源の活用

内 容	ご 意 見	対 応
文化・観光・産業の連携	兵庫県は五国からなり、それぞれに多彩で特色ある文化がある。また、観光や産業の面においても特色がある。そういうものの連携を深めていくことが重要である。	○重点取組項目3-2「地域の優れた芸術文化遺産の発掘・発信による地域意識(シビックプライド)の育成」に記載 兵庫五国それぞれの多彩で特色ある文化の連携を深めるとともに、その魅力を生かすため、文化や観光、産業などの異なる分野間での交流を進める。(再掲)
芸術文化の側からの観光への接近	芸術や文化の側から、観光に接近するという態度をとる必要がある。芸術や文化は敷居が高いという人にとって分かりやすい環境とは何かを、議論する必要がある。	○重点取組項目3-1「地域活性化に向け文化資源や芸術文化のまちづくり・産業づくりへの活用」に記載 文化観光の視点から、芸術の魅力ある見せ方を工夫し、鑑賞者である観光客に対するアプローチのあり方を検討する。(再掲) ○課題と展開方向3(2)「地域資源を活用した地域の元気づくりの推進」に記載 課題：優れた芸術文化や地域資源がすぐに観光資源となるわけではなく、芸術文化になじみが薄い人にとっても分かるよう、芸術文化の側において見せ方について十分な検討が必要である。
地域イベントの支援	龍野や丹波篠山における地域でのイベントがより飛躍するためのサポートも、今後必要になってくる。	○重点取組項目3-2「地域の優れた芸術文化遺産の発掘・発信による地域意識(シビックプライド)の育成」に記載 地域振興の大きな力となる各種イベントについて、より飛躍するための支援を行う。 ○課題と展開方向3(2)「地域資源を活用した地域の元気づくりの推進」に記載 課題：既存の地域型アートイベントについても、さらに飛躍するための支援が必要である。

## 9 連携体制の構築

内 容	ご 意 見	対 応
県民への情報発信	兵庫県は財政的に厳しい状況にあるが、芸術文化に関しては、ソフトもハード整備も頑張っている。しかし、その頑張っている活動が、多くの人達に届いていない。県民と一緒に頑張って「芸術文化を盛り上げよう」という呼びかけがもっとあっても良い。新たなビジョンには、県民への情報発信を取り入れる必要がある。	○課題と展開方向4(2)「県民、団体、企業、行政等の各主体の連携体制を強化する」に記載 課題：多くの県民が県の行っている芸術文化振興施策について十分認識していない状況にあることから、県民に対するPRにも留意する必要がある。 主な取組：・関係者や一般県民に向けた「芸術文化振興ビジョン」の周知・啓発
プラットフォームの整備	プラットフォームの整備は非常に重要である。県・市町の行政がまたがる分野を、プラットフォームで上手く回していく必要がある。	○課題と展開方向4(2)「県民、団体、企業、行政等の各主体の連携体制を強化する」に記載 現状：本県においては、様々な芸術文化団体や芸術家が、兵庫県芸術文化協会や地域の総合的文化団体に集うことにより、相互に連絡・連携をとりながら様々な活動を展開しており、それが本県の強みの一つともなっている。 展開方向：県内市町や関西広域連合構成府県等との協調を図り、より効率的で効果的な芸術文化施策の展開を図る。
異分野との交流	文化や観光、産業といった異なる分野の人たちが一堂に会し、討論し、芸術文化について発表する、そういう場をつくってほしい。	○課題と展開方向4(2)「県民、団体、企業、行政等の各主体の連携体制を強化する」に記載 展開方向：芸術文化団体のさまざまな活動を多角的に支援するとともに、芸術家への支援機能を有する県芸術文化協会等を中心に、緩やかな芸術家間の連携・協力体制を構築する。